

提出日：2015年3月

クルーズサマリー

1. 航海情報

航海番号：YK14-E01

船舶名：「よこすか」

航海名称：「海溝型巨大地震・巨大津波：実態解明に向けた地質・地球物理調査研究 1 海溝軸から陸側斜面における地震発生履歴調査：採泥」

首席研究者 [所属機関名]：金松敏也 [海洋研究開発機構]

課題代表研究者 [所属機関]：小平 秀一 [海洋研究開発機構]

研究課題名：「海溝型巨大地震・巨大津波：実態解明に向けた地質・地球物理調査研究 1 海溝軸から陸側斜面における地震発生履歴調査：採泥」

航海期間：平成26年11月13日（木）横須賀～11月28日（金）八戸

出港地～寄港地～帰港地の情報：横須賀住重岸壁～八戸港

調査海域名：東北沖太平洋

調査マップ：Fig.1

2. 背景

これまで東北太平洋沖における海溝型地震の長期評価をおこなうための海底の活動履歴の情報が十分でなかった。本調査では海底に記録された地震履歴情報を取得するため、これまでの調査に引き続き、mid slope terrace を中心に地層採取の航海を実施した。

3. 調査概要

地震による海底斜面崩壊に起因した堆積物、断層変位によって形成された堆積物、強振動によって形成された堆積物を採取し、分析することにより2011年東北地方太平洋沖地震に起因して形成された堆積物の広がりを把握し、さらに過去の地震の発生履歴や震源の広がりを明らかにすることを目的とした。主な調査範囲は、mid slope terrace と呼ばれる水深4000-6000mの日本海溝陸側斜面に発達する平坦面で、NT13-19でカバーできなかった地点で実施し、浅海部で表層の地震記録が2011年以来どのように変化したか知るためにマルチプルコアラーで採泥をおこなった。また夜間を中心に地形調査、SBP(サブボトムプロファイラー)による地層調査もおこなった。10回のピストンコアラーと、4回のマルチプルコアラーによる採泥を実施した(Fig.1)。薄い砂層を含むタービダイトなどイベント層を含むコアが複数採取された。下船後、これらと過去の地震との関連について考察するため分析を進める。

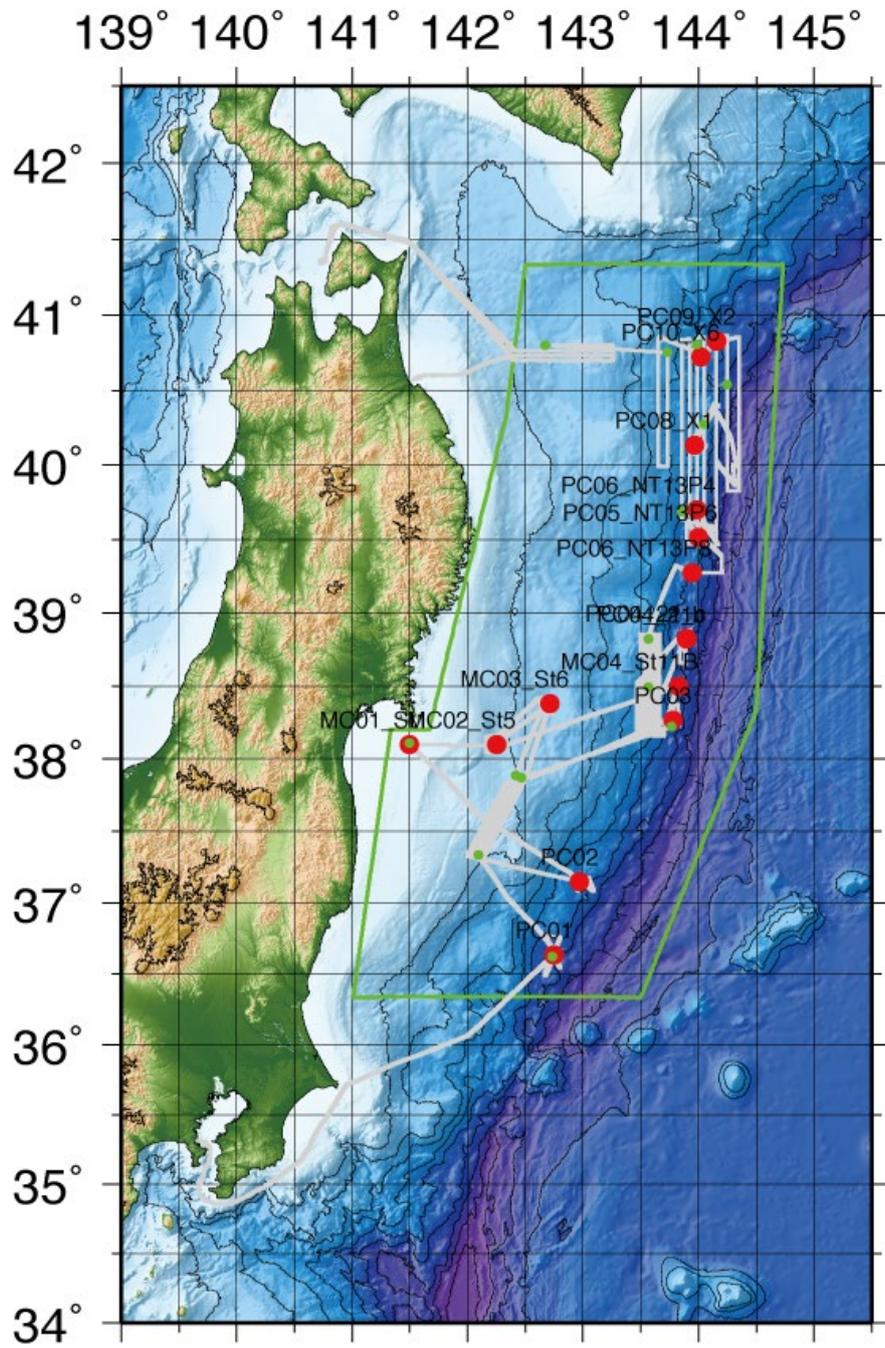


Fig. 1. YK14-E01 の調査範囲